

帰国準備と帰国後の教育

日本への帰国準備と帰国後の教育についての情報をお届けします。



最近の日本の大学事情

文部科学省「平成 21 年度学校基本調査速報」(2009 年 5 月より)

大学進学率、50% 超える！

2009 年 4 月の 4 年制大学 (学部) への進学者 (過年度卒業生等を含む) は 50.2% で、過去最高でした。

3 月に高校・中等教育学校の卒業生のうち、54.9% (過去最高) が 4 年制大学を、6.3% が短期大学への進学を志望しました。

高等教育機関 (大学・短期大学・専門学校) への進学率 (過年度卒業生等を含む) も、77.6% で過去最高でした。

同じ調査によると、高等学校等への進学率は 97.9% (前年より 0.1% 上昇) で過去最高でした。

☆

高校・大学進学率とも過去最高との速報で、高校は「全員進学」、大学は「二人に一人が進学」の時代です。特に 4 年制大学への進学が、50% を超えたのが「大学教育の大衆化」の一区切りとして捉えられています。

より良い生活を勝ち取るために、世間の親は子どもの教育に一生懸命です。特に東アジアの国々では「儒教」や「科挙」の伝統が強いせいでしょうか、子どもに大学教育を受けさせるために、親は大きな犠牲を払っています。

日本では、少子化の影響もあり、かつてのように「大学受験戦争」の言葉は聞かれません。しかし、お隣の国々の大学進学率は韓国 83%・台湾 93% とのことです。

この高い進学率がもたらす国内の大学入試の激化の影響でしょうか、アメリカのどこの大学でも、アジアの国々からの留学生が必死に勉強しているという話を聞きます。

また、大学だけではなく、中学・高校時代からの海外留学、特に英語圏で比較的費用の安いオーストラリアやニュージーランドへの留学も多いと聞いています。

教育、特に大学教育は国の経済発展のエンジンといわれます。日本の大学進学率は、60%・70% と近い将来上がっていくのでしょうか？ そして、日本は？ (松本)

18 歳人口、ピーク時の 59%

大学入学年齢 18 歳の人口が、今年の春には 121 万人まで減少しました。

18 歳人口 121 万人は、1992 年に 206 万人でピークを示したあと、少子化で減り続け、ピーク時の 59% まで下がりました。今後 10 年間は 120 万人前後の 18 歳人口が続きます。

☆

少子化の傾向が、底を打ったようです。しかし、その数が今後 10 年以上も続くとのこと。

企業の倒産に当たる、募集停止せざるを得ない大学が来春には 5 大学も出ます。また、日本の 4 年制大学約 600 校のうち約半数が定員割れしているとも言われています。さらに、信じられないことですが、毎年、大学の新設や学部増設が続いています。

18 歳人口の横ばいが続けば、なお一層、大学の学生確保と経営が大変になることは明かです。 (松本)

大学生の就職率 68%

2009 年 3 月に大学を卒業した 56 万人内の 68% が就職し、12% (約 7 万人) の人は就職 (一時的な仕事も含む)・進学もしませんでした。

☆

「7 割も就職できる」「7 割しか就職できない」あなたはどちらの見方？ 私は、悲観的に後者の見方をしてしまいます。

大学進学が目的が、「良い会社に入るため (団塊の世代?)」から、「良い」が取れて「会社に入る (就職のため)」に変わり、ついに「7 割しか就職できない」時代になってきた？

「蟻族」：中国での新語で、「収入が極めて少ない大卒生」のことだそうです。大学卒業が就職へのパスポートの時代は、大学進学率の向上と共に、消えていくのでしょうか？ (松本)